

1. まちの将来像

第2章で整理した「まちが持つ強み・弱み」を課題としてまとめ、それを踏まえて「蒲田のまち」の要素となるキーワードと将来目指すべきまちの姿をイメージしました。

課題

①まちの産業の中心となる商業・業務の発展と商店街の活性化

②魅力ある歴史の掘り起こしと「蒲田文化」を活かしたまちづくり

③羽田空港アクセス機能の向上と空港に隣接する立地を活かした産業の発展

④利用者増に対応した駅・駅前広場の再生と公共交通の充実

⑤蒲田らしさを保つ計画的な基盤施設の補強と建物等の更新

⑥京急連続立体交差関連事業の推進と京急蒲田駅周辺の魅力づくり

⑦地球に優しい都市環境の確保と地域力でつくる安全で快適なまち

キーワードと将来イメージ

商業・にぎわい・多文化共生

羽田空港と隣接する立地を活かしたソフト・ハードの取り組みにより、商店街などの活性化を進め、居住者や国内外の様々な来街者が、観光や食事、買い物などで、多様な文化に触れることができる人でにぎわう活気あふれるまち

都市機能

更新期を迎えた建物の建替えと道路、駅前広場などの機能向上を図ることで、ゆとりある都市空間と利便性の高い基盤整備が行き届いたまち

安心・快適性

限られた自然を有効に活用して、潤い環境を確保する取り組みと地域の人たちの活動でつくる快適な住環境と憩いの空間で、住む人や訪れる人、すべての人が気持ちよく過ごすことができるまち

～まちの将来像～

「にぎわいあふれる多文化都市、 誰もが安心して気持ちよく過ごせる人にやさしい蒲田」



誰もが安心して利用できるバリアフリーな駅舎、まちの東西を自由に行き来することができる連絡通路を抜けると、まちのシンボリックな風格ある駅前広場に出ます。広場はゆったりとした歩行者空間が広がり、高齢者、子ども、障がい者など誰にとっても移動しやすく快適であるように整備が行き届いています。オープンスペースでは野外コンサートなどが行われていて、まちに集う人たちのたまり場となっています。駅前から連なる商店街は、個性と魅力あふれる店が集積し、ショッピングや蒲田の食文化を楽しむ周辺居住者や観光客でにぎわっています。付近には、呑川緑道・旧逆川道路など、季節の移ろいを感じさせる魅力あふれる散策路があり、まちに新たな回遊を生み出しています。まちは、街路や建物・店先の清掃が行き届き、地元ボランティアによる花壇づくりや防犯パトロールなどにより、気持ちよく安心・安全な空間となっています。

包容力ある蒲田のまち、その居心地よさと多文化な魅力は人をひきつけ、エネルギーを生み出しています。

2. まちづくりの基本方針

まちの将来像実現に向けた取り組みを進めていく上で必要となる、まちづくりの基本方針を定めます。「にぎわいあふれる多文化都市、誰もが安心して気持ちよく過ごせる人にやさしい蒲田」という将来像に基づき、基本方針を「商業・にぎわい・交流の創出」「都市機能の向上」「まちの快適性の確保」の3本柱としました。

1 基本方針 商業・にぎわい・交流の創出

2 基本方針 都市機能の向上

3 基本方針 まちの快適性の確保

基本方針1 商業・にぎわい・交流の創出

蒲田の地域特性を活かして、多文化の魅力を発展させながら様々な人々が交流する、持続可能な活力とにぎわいを生むまちを目指します。

駅を中心として広がる商店街での、商業活動の活性化はもとより、商業空間としての演出やイベントの開催、居住者・来街者による人のにぎわい・回遊性の向上を図ります。また、歴史・文化資源の掘り起こしも行いながら、新たな魅力を創出します。さらに羽田空港の国際化を契機に、多様な商業・業務が集積されたまちを形成します。



街路イメージ

基本方針2 都市機能の向上

区内最大の交通拠点都市として、住む人・訪れる人に快適・便利なまちを目指します。

公共交通ネットワークのターミナルである蒲田駅の交通結節機能を強化していきます。また、ユニバーサルデザインの考え方や低炭素社会実現の視点で、広場、建物、道路など、まちのハード面を整備していくことで、基盤施設等の機能向上を図ります。



蒲田駅前広場イメージ

基本方針3 まちの快適性の確保

住む人・訪れる人に心地よい環境をつくり、高齢者・子ども・障がい者・外国人など、誰もが安心して過ごせる、人にやさしいまちを目指します。

水と緑を楽しむ事のできる散策路づくり、一人ひとりの力で緑を増やしていくことで、まちなかに潤いとやすらぎが感じられる空間をつくります。また、防災対策・防犯活動などで安全な都市環境を確保します。



呑川緑道イメージ